

# 行政視察報告書

<b>1. 委員会または会派等</b> 広報広聴委員会 広聴部会
<b>2. 視察期間</b> 令和2年2月4日の1日間
<b>3. 視察先</b> 兵庫県三田市
<b>4. 視察項目</b> 予算審議の議会報告会について さんだ未来トークについて
<b>5. 参加者</b> 〔委員〕 三宅 智加子、城後 徳太郎、森 遵、山口 雅夫、 松尾 哲也、森田 義孝 〔随員〕 松尾 英樹 〔同行〕
<b>6. 考察</b> 別紙のとおり  以上のとおり、報告いたします。  令和2年3月31日  報告者 <u>三宅 智加子</u>  大牟田市議会議長 殿

## 兵庫県三田市

三田市は兵庫県の南東部に位置し、南は神戸市北区に接しており、東は宝塚市北部、西は加東市、北は篠山市に面している。市域は北部と東部の山間部と南西部の丘陵地帯、南東部の盆地にわかれている。市内には北西から南東にかけて武庫川が流れ、波豆川や羽束川・黒川・青野川などの支流が注ぎ込んでいる。また、青野ダムや大川瀬ダムをはじめとした、大小さまざまな貯水池があり、豊かな水源を有している。市城南西の丘陵地には、住宅地が広がっており、市内の人口の5割弱が居住し、北部の山間部では農業が盛んで、田園風景が広がり、豊かな自然環境が保たれている。人口総数は約11万2千人。

### 【視察事項】 予算審議の議会報告会について、さんだ未来トークについて

#### 【選定理由】

本市議会の議会改革においては、その柱でもある議会報告会を開催し、市民意見を集約し議会活動に反映してきた実績がある。このような実績から今後も引き続き議会報告会を開催していくものの、若者を含め参加者が少ないことが課題であった。

このことから、市民の意見をいかに聞き取るかといった課題の中で、三田市議会では新たな議会報告会等の実績があることから、その先進的な取り組みを把握し、我々の議会活動に取り入れるべく視察項目として取り上げたもの。

#### 【概要説明】

三田市議会 議会改革推進会議の厚地委員長、國永副委員長から、資料により説明いただいた。

##### (1) 視察事項の概要

三田市議会の議会報告会等は平成25年度から開催されており、これまでの経過や課題を整理するために従来型を一部見直し、従来の議会報告会に加えてテーマ別意見交換会が2年行われ、その後、市民との意見交換会（市政相談）が実施されている。さらに、市民が希望する形の意見交換会をスタートしている。

- ・ 議会報告会及びテーマ別意見交換会
- ・ 市政相談
- ・ 伺います！さんだ未来トーク

##### (2) 報告の詳細

###### ① 議会報告会等の当初の経緯等

議会基本条例が平成24年7月に施行され、その推進に当たっては、「議会改革推進会議」が組織されており、「市民との意見交換の場」をどのように推進すべきかを検討された結果、関係する要綱を定めた後に議会報告会を市内3カ所で開催され

おり、本年度は市役所で2回の実施となっている。議会報告会は各常任委員会から2、3名にて3班7名体制となっており、テーマ別意見交換会は参加者を3グループに分けてそこに議員2名が入ることとなっている。

また、全国初となる市政相談については、毎月1日に委員会室にて開催されていたが、現在は本会議を除く各月に実施され、議長を除く全議員が3名の輪番制で担当されている。

「さんだ未来トーク」については、市民の参加を容易にして広く意見を聴いて市議会を身近に感じてもらう目的で平成29年11月からスタートして、これまで4回開催されたが、今年度の実績はない状況である。

## ②課題

議会報告会及びテーマ別意見交換会は、参加者が減少傾向にあるため、開催時期、テーマの設定等の開催方法、効果的なPR方法等について議会改革推進会議にて検討されている。

市政相談については、参加される市民はすぐに問題解決されると思われることから、誤解のないように趣旨を周知しながら、利用者拡大を検討されている。

「さんだ未来トーク」については、意見交換が主目的であり、出された意見・要望は、議会での協議や市長への意見・要望につなげる仕組みが検討されている。

## 【質疑応答】

問：議会報告会の分科会というのは、予特の常任委員会の分科会形式で望むのか。

答：予特の常任委員会の分科会のメンバーと議会報告会の分科会のメンバーは同じである。通常予算審議のメンバーで対応している。

問：予算資料の説明内容があるが、予算審議でまとめた内容を説明しているのか。

答：班にいる分科会のメンバーが予算審議の内容を説明している。

問：「さんだ未来トーク」の4班のメンバー構成というか分け方はどうするのか。

答：バランスをとって機械的に1班から当たり、都合悪ければ次班となる。

問：「さんだ未来トーク」では相手方に出向いて行われるが、個人の意見をどこまで聞くのか。相手の本音に近い雰囲気の話ができるのか。

答：議員の対応は、会派なり個人で多少違うが、事前に相手方と打合せして実施し、一定ざっくばらんに話はできていると感じている。議員個人のPRではなく、本会議や委員会で言っている内容と変わらない。

問：4月に予算審議の議会報告会を実施して次年度予算への反映は。

答：議会報告会での意見を当局に要望・議会での協議・参考意見の3つに分けている。次年度に予算化した事例もあり、問題事例を継続していくことはない。

問：議会報告会で基本的に問題課題は持ち帰らないが、本人にはどう対応している

のか。それともホームページで公開するのか。

答：問題課題の仕分けを行うが、個別対応として次年度に本人へ返していない。広報紙で載せていることがある。

問：大牟田でも各種団体との意見交換会は必要と思っており、投げかけていかないと難しいと思うが、その辺の考えは。

答：閉会中に常任委員会では意見交換会を行うが、毎年とはなっていない。待つだけでは厳しいのが現実で、未来トークはこちらで投げかけなければと感じる。

問：議会報告会の参加年齢は高いのか。

答：高く 70 代が多い。現実的には来てくれない、託児所も利用はなかった。

問：27 年度から土日祝日のお昼になっているが、変えた理由は。

答：最初は多かったが減り、お昼が暗黙の了解となった。市議会議員選挙も個人演説会をするが、動員するのも大変で、夕食の時間は嫌がっている実感がある。

問：三つの方法で意見を聞かれて、メリット・デメリットどちらが多いのか。

答：市民は、議員と接するのはハードルが高いとされていて、接する人が一人でもふえればメリット。意見が出たときどの立場で意見を言うのか、ルール化していないとその時の反応が違う。納得した市民はまた来たいと思うがそうでないときは、メリット・デメリットはどちらともいえないと思う。

#### 【所感】

○三田市議会は議会報告会を初め意見交換会、市政相談、「さんだ未来トーク」とさまざまな取り組まれているが開始当初からすると参加人数が減少しており、どこの市議会をみても同じような傾向にある。本市議会の議会報告会参加人数は横ばいではあるが、毎年同じ市民が参加をしている状況であることを考えると例外ではないと考える。参加人数の増加に向けては、視察中の説明の中でもあったが、どうやって知ってもらうのか、広報の方法を工夫する必要があり、加えて市民の関心が高まるようなテーマの選定を行っていく必要があると感じた。また、三田市議会が議会報告会とは別に取り組んでいる意見交換会での参加者を三つのグループに分け小グループで意見交換を行うという形式は、本市議会が行っている議会報告会の後半部分で質問がしづらいという意見を解決するために生かすことができると考える。令和 2 年度の議会報告会で 10 回目となるが、新しい形も含め、議会報告会のあり方を考える必要があると感じた。

○議会報告会、テーマ別市民との意見交換会、市政相談、「さんだ未来トーク」とさまざまに市政について説明し、また市民意見を酌み取るための仕掛けが行われていた。なかなか、継続的な参加者の確保につながらず、苦勞されていたが、議員が、少人数グループに分かれての対応や申し込み方式で先方に合わせた日時

で対応するなど、工夫もされており、本市において、今後、取り組もうと議論が出ている若者や組織別の意見交換会についての参考としたい。

○三田市議会では、本市議会と違い、議会報告会だけではなく、議員が班ごとに参加したグループワーク形式での意見交換会や、毎月1日に市役所にて開催される市政相談、市民が希望する日時や場所で行われる「さんだ未来トーク」などさまざまな手法別の広聴機能を有していた。手法ごとに効果は違えども、第一の目的は市議会を市民に身近に感じてもらうためであり、初めは議員自らが駅前でのビラの配布を行うなど、頭が下がる努力を重ねていた。しかしながら、年々参加者数の減少や相談者の固定化など実施している三田市議会でも課題が浮き彫りになり、限界が見え隠れしていることも事実であった。その点、本市議会は多少の増減はあるものの、毎年参加者数が安定して開催できていることは一定評価に繋がると自己評価できると感じたが、9回目の開催による内容のマンネリ化は否めない。今後どのようにしてさらなる改革を行うのか、本委員会でも見識を深めながら答えを出したい。

○三田市議会の予算審査の議会報告については、予算審査自体が本市と異なり、3常任委員会で審査しており、予算議決後の報告では、市民からの意見をどの段階で次年度の予算や政策に反映していくのかが不透明であると感じた。

まず、「さんだ未来トーク」は、開催の周知方法として、ポスターを作成しPRされているのは参考になった。本市議会同様、待ち受けの体制ではなく、ショッピングセンターなどの街へ出ていくことが課題であると感じた。また、市政相談は、毎月1回（定例会開催月を除く）開催されていることに感銘した。しかし、同一人物が同一テーマで申し込まれたり、課題があると感じた。

本市議会も、幅広く市民の声を市政に反映するために、団体との意見交換会の開催や、参加しやすい議会報告会の開催が求められる。

○三田市議会における議会改革は、平成24年7月1日に議会基本条例を施行し、その推進に当たっては、議会改革推進会議を組織され具体的な取り組みの検討や調査研究を行うこととされた。その中で、議会報告会を平成25年4月に開催され、以後毎年4月に市民センター等3か所で、予算審査の議会報告会を開催している。その他にも議会主催の市民相談、「さんだ未来トーク」など、市民意見の聴衆や反映に向けた取り組みを推進されていた。

特に、市政相談、「さんだ未来トーク」などは、市議会を身近に感じてもらう取り組みであり、本市議会における議会報告会のあり方や手法の参考にしていく必要があると感じた。

